

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。  
プライス・コード{a ¥ 1 6 9 0 / A ¥ 1 8 9 0 / B ¥ 2 0 9 0 / C ¥ 2 2 5 0 / D ¥ 2 4 9 0}  
(表示価格は税抜き) 別途消費税が加算されます

[www.tambourine-japan.com](http://www.tambourine-japan.com) email: [song@tambourine-japan.com](mailto:song@tambourine-japan.com)

注文方法サイト: <http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm>

[CD/USA {female}] (P15) [CD/CANADA] (P19)

[DVD&CD/USA]

※国内製 DVD プレーヤーで再生可能

- \*STEVE EARLE:Live From Austin Tx (DVD) B  
\*STEVE EARLE:Live From Austin Tx (CD) A  
(2000年11月、Austin City Limits でのライブ。バックは Eric Ambell {ギター}、Kelly Looney {ベース}、Will Rigby {ドラムス}。全15トラックの74分。2008作。New West)

[DVD/USA] NTSC all regions

※国内製 DVD プレーヤーで再生可能

- \*EMMYLOU HARRIS:Live In Germany D  
(2000年の Spyboy をバックにしたドイツでのライブ。全13曲。2011作。Immortal)
- \*DOWN HOME MUSIC "A Journey Through The Heartland 1963" D  
(1963年のアメリカ各地の様々な音楽の記録 DVD だ。ドイツ人 Dietrich Wawzyn がアメリカのルーツ音楽を求めて各地を旅して記録した映像で、Jesse Fuller のブルースを皮切りにカリフォルニアを南下し、黒人ブルース、ジャズ、フォーク、ブルーグラス、ネイティブ・アメリカンの音楽、教会の黒人音楽、テキサスに入って、Lightnin' Hopkins や Mance Lipscomb の弾き語りやスライド・ギターのブルースやホーン・バンド、そしてルイジアナに下って、ブルーグラスや黒人ブルースやテキサス・ジャズや葬儀の音楽、テキサスではヒル・リバーやカントリーや演芸カントリー、そして路上の黒人ブルース、最後はノースカロライナの オールド・タイム・ミュージックという流れ。2010作。75分。Arhoolie)
- \*BOB DYLAN:Don't Look Back B  
(1965年イギリスツアーのドキュメンタリー。1時間35分。67/99作。Docurama)
- \*CROSBY, STILLS & NASH:Live In L.A. B  
(1982年サンゼルスでの New Universal Amphitheater でのライブ。全23曲で80分。2007作。オランダ Immortal)
- \*BRUCE SPRINGSTEEN:Classic Performance B  
(B. Springsteen の初期のベストライブ集。1988年と2005年のカバー・ライブ。American Legends)
- \*BIG BROTHER AND THE HOLDING COMPANY:Hold Me B  
(2007作。Dig Music)
- \*ELIZA GILKYSON:Live From Austin Tx a  
(2001年8/13、Austin City Limits でのライブ。全11曲。53分。2007作。New West)
- \*GRAM PARSONS:Fallen Angel a  
(ドキュメンタリー-DVD。103分。2006作。Rhino)
- \*ANI DIFRANCO:Trust D

(2004年5月11日&12日の二日間行われた Washington DC のクラブでのライヴ。全21曲。2004作。Righteous)

- \*STEPHEN STILLS AND MANASAS: The Best Of Musikladen B  
(72年のテレビ・ショーのライヴ映像。40分。Pioneer)
- \*WILLIE NELSON: Willie A  
(91年の“The Great Outlaw Valentine Concert”{全14曲}と  
“Nashville Superstar Concert”{全12曲}。88分。2002作。MVD)
- \*TONY JOE WHITE: In Concert A  
(92年ドイツのライヴ・ハウスでの熱いライヴ。全11曲。約60分。ドイツInakustik)
- \*JOHN DENVER: Montana Christmas Skies A  
(全14曲。47分。99作。Delta)
- \*DUKE ROBILLARD: In Concert B  
(94年ドイツのテレビ出演時のライヴ映像。全10曲。2001作。ドイツInakustik)

### [DVD/USA] PAL all regions

※PAL専用DVDプレイヤーかパソコンで再生可能

- \*EMMYLOU HARRIS: Love Hurts a  
(“In Concert”。ゲスト: Carl Jackson, Dave Matthews。全15曲。64分。  
2005作。ドイツAll Stars)
- \*WILLIE NELSON&LEON RUSSELL: In Concert a  
(Paradise Showのライヴ。Leon[ピアノ]とWillie[ギター&ピアノ]のアカステイ  
ックなソフとデュエットそしてMaria Muldaur&Bonnie Raittそしてフルバンド  
の数曲は二人の持ち味がたっぷり楽しめるライヴ。55分。2005作。  
ドイツAll Stars)
- \*JAMES TAYLOR: In Concert a  
(副題“You've Got A Friend”。バンド付き18曲入りライヴ。“Sweet Baby  
James”から変わらぬJamesの温厚な人柄がそのままかつ音楽性も  
シンプルなのからポップでファンキーなのまでそのままの温かいライヴ。2004/  
2005作。82分。ドイツAll Stars)

### [DVD/USA] NTSC Region 1

※NTSC Region 1専用DVDプレイヤーかパソコンで再生可能

- \*JIM GROCE: Have You Heard — Live D  
(“You Don't Mess Around With Jim”, “Operator”, “Bad, Bad Leroy  
Brown”他全15曲入りライヴ。約1時間10分。2003作。Shout)

### [DVD-AUDIO/USA]

※国内製DVDプレイヤーで再生可能

- \*JOHN SEBASTIAN: From The Front Row, Live ¥1000  
(全16曲入り弾き語りライヴ。画像はライヴ映像ではなく、1曲1曲静止  
映像。2003作。Silverline)

### [VIDEO/USA] 日本のVHS方式でご覧になれます

- \*ALLMAN BROTHERS BAND: Live At Great Woods D  
(Gregg Allman, Dickey BettsほかによるAllmanの91年のライヴ。11  
曲。90分。92作。Sony)

\*STEVE EARLE&THE DUKES:Transcendental Blues Live D  
(全 17 曲。70 分。2000 作。E-Squad)

\*TROUBADOURS OF FOLK MUSIC D  
(93 年 UCLA でのライブ。Arlo Guthrie, Richie Havens, Beausoleil,  
John Prine, Janis Ian, Jefferson Starship, Janis Ian, Odetta。  
54 分。94 作。Rhino)

### [CD/USA]

\*DARDEN SMITH:Everything A  
(Nanci Griffith などをゲストに迎えて制作された 1986 年のデビュー作から大ファンのテキサスのヴェテラン SSW の D. Smith の新作は、何と云うか、1970 年代のアサイラム系 SSW の雰囲気は漂わず大いに好みの SSW アルバム。D. Smith は元々、テキサスの SSW でありながら、+α な繊細な輝きを感じさせる SSW だが、本作は特に内省的というか、彼の心模様がロマンティックに表現されていて、西海岸っぽい陰影感あるサウンドと相まって、彼の唄の世界は最高に輝いている。今になって、こんな素敵な Darden Smith の作品と出逢えるとは思わなかった。w. David Mansfield, Charlie Sexton, Roscoe Beck, JJ Johnson, Michael Ramos, James House, Beth Nielsen Chapman, Bonnie Bishop, Kelly Willis。2017 作。Compass)

\*JAMES LUTHER DICKINSON FEATURING NORTH MISSISSIPPI  
ALLSTARS:I'm Just Dead, I'm Not Gone"Lazarus Edition"A  
(2009 年に 67 歳で亡くなった James Luther Dickinson が、2006 年 6 月 2 日、息子二人 {Luther&Cody} が主要バンド・メンバーの南部ロック・バンドの North Mississippi Allstars を従えて行ったコンサート・ライブ音源からのスペシャル・エディション版。スワンプの名盤の誉れ高き彼のデビュー・アルバム"Dixie Fried" [1972 年] で出逢ってから、南部音楽一途だった James Luther と彼の音楽を受け継ぐ North Mississippi Allstars とによる、説明不必要な骨太で本醸造な南部ロック〜スワンプ。2006 年/2017 作。Memphis International)

\*THE SHOW PONIES:How It All Goes Down A  
(Show Ponies は Clayton Cheney {ヴォーカル、ベース} と Andi Carder {ヴォーカル、バズ} の男女のリード・ヴォーカルに Jason Harris {ヴォーカル、ギター}, Philip Glenn {フイドル}, Kevin Brown {ドラム} を加えた一姫四太郎の、ロスを拠点に活動するルーツロック・バンド。彼らのロックは二人のヴォーカルを含めて、ルーツ色が濃く、また 70 年代のカントリー・ロックのように音楽に活気がみなぎっていて、雑草のようにたくましい。デジタルの時代に対抗するかのような彼らの健やかなルーツロックは、心身を元気にしてくれる。ある意味、西海岸産ロックらしいロックだ。2017 作。Freeman)

\*SON OF THE VELVET RAT:Dorado A  
(SotVR はオーストリアの SSW の Georg Alziebler と彼の奥さんの Heike Binder を中心に結成された米国ルーツロック・バンド。Joe Henry をプロデューサーに迎えてカリフォルニアで録音された本作は、夫妻の夢の企画が実った米国ルーツロックの酸いも甘い

も知った大人のルーツロック。全編、Georg の、例えば Jack Hardy のような闇の中から発されるような深く荒涼感が漂うヴォーカルとゆったりとしたミディアム・テンポ以下のロックは、ある種夢の中に誘われるような旨みのあるロック。ゲスト:Victoria Williams。2017 作。Fluff&Gravy)

\*STEVE FORBERT:Flying At Night A  
(Steve Forbert の 17 枚目のスタジオ録音アルバムは、1992 年リリースの“The American in Me”以来付き合いのあるマルチ楽器奏者の Anthony Crawford {バッキング・ヴォーカル、ドラムス、ベース、エレキギター、キーボード、マンドリン、フイドル、ペダル・スティール} とのコラボ。聴き親んだ Steve Forbert のしゃがれ声だが、ルーツロック系 SSW アルバムとして必要最低限の軽めの伴奏で、自作の夢うつつな唄を軽めにうたったようなリラックス&レイドバック感が何とも心地よいホームメードな温かみのあるアルバムだ。じわじわと病みつき。2016 作。Rolling Tide)

\*NORMAN BLAKE:Brushwood Songs & Stories A  
(悠々自適な Norman 爺さんの悠々自適な新作。ギターを爪弾けば、自然と唄が湧いて出てくるような枯淡の唄が 15 曲とギター演奏が 2 曲と語りが 2 曲の 19 曲。その枯淡の唄は、時に Townes Van Zandt のような味わいを醸し出してもいる。また 5 曲の奥さんの Nancy とのデュエットは、のほほーんとした雰囲気ではほほえましい。評価などともない米国フォーク界の巨人の心身から生まれ出た人のぬくもりのある唄とギターと語りだ。2017 作。Western Jubilee)

\*JACK GRELE:Got Dressed Up To Be Let Down A  
(聴くなり馴染んで、すぐに和んでしまった、まるで 70 年代の緩くて人なつっこい唄たち。ヴォーカルの感じは John Prine っぽい。Michael Hurley のような、とぼけた悠長さもあったり、Jesse Colin Young と彼の仲間達が立ち上げたラクーン・レコード一派の音楽のような 70 年代の西海岸田舎志向カントリー・ロック風のんびり感もあったりで、個人的に全くの「好み」。演奏は無名のミュージシャンばかりのカントリー・ロック・バンド編成で、演奏の緩さも魅力。心も体もニコニコ保証。2016 作。Big Muddy)

\*THE KENTUCKY HEADHUNTERS:On Safari A  
(こんな豪腕カントリー・ロック&南部ロック・バンド知らなかった。バンドが結成されたのは 1986 年だが、バンドの始まりは 1968 年だという。一聴すれば、彼ら四太郎アメリカン・バンドのロックの本物度がガンガン体感できる。スライド・ギター、エレキギター、ドラムス、ベースは重厚感あるアメリカン・ロックを叩き出し、ヴォーカル&ハーモニーは、土臭く泥臭く、テンションが高い。百戦錬磨な上に、凄いパワーを持った凄いバンドだ。2016 作。Plowboy)

\*THE LONELY HEARTSTRING BAND:Deep Waters A  
(ヴォーカル&ギターの George Clements の、野郎ながら爽やかな胸キュンのヴォーカルをフィーチャーした爽風感のあるブルースグラス風味ルーツロック・バンド。他のメンバーは Patrick

M' Gonigle [フイドル、ヴォーカル]、Gabe Hirshfeld [バンジョー]、Matt Wiltner [マンドリン]、Charles Clements [ベース、ヴォーカル]。George の爽やかなヴォーカルによく似合うバンジョーやマンドリンの小気味よいサウンドが冴えていて、何とも快い。気分は小春日和。2016 作。Rounder)

\*PAT DONOHUE: Blue Yonder A  
(グラミー賞受賞ギター奏者の Pat Donohue はフィンガーピッキング・ギターの名手であると同時に個人的に好きな SSW。本作はようやく出してくれた SSW 系アルバム！本作は鮮やかなギター・ピッキングやスライド・ギターの名伴奏付きて、フォークやブルースやカントリー・ロックやジャグバンドなどのオール・アメリカンなスタイルで、悠々自適で、飄々とした彼独特なうたと音楽を味わわせ、楽しませる。ゆるくて、のほほーんな、それでいて粒立ち感のある David Bromberg 風な唄と音楽。2016 作。Bluesky)

\*TONY JOE WHITE: Rain Crow B  
(アルバム評なんて失礼にも感じるどころか「Tony Joe White」なスワンプ。名作“Homemade Ice Cream”のような穏やかさだが、年季というか年輪というか、終始ひとことでは言い表せない重みがある。w. Bryan Owings [ドラム]、Steve Forrest [ベース]、Tyson Rogers [キーボード]。プロデューサーは息子の Jody White。2016 作。Yep Roc)

\*TONY JOE WHITE: Deep Cuts B  
(南部男 Tony Joe の最深部から生まれた南部ロック。2008 作。Munich)

\*DANIEL MARKHAM: Disintegrator a  
(Terry Allen や Flatlanders タイプとの紹介を見て、興味を持ったテキサスの若き SSW の Daniel Markham の新作。期待した兩大物の土臭さや泥臭さは薄い、それよりも R. E. M. タイプの西海岸志向のビター・スイートなルーツロックを若者らしく、かっこよくガンガン聴かせていて、いやはや圧巻。Daniel 自身の唄も今が旬の夢の輝きを放っていて、一曲一曲がこだわりの重厚なルーツロック・サウンドと共に、聴き応えたっぷり。不思議と曲が印象的で、ふとしたときに頭の中で彼のうたが鳴っている。2016 作。簡易紙ジャケット)

\*THE STATESBORO REVUE: Ramble On Privilege Creek B  
(Statesboro Revue は Stewart Mann の南部ロッカーの貫禄たっぷりなヴォーカルをフィーチャーしたルーツロック・バンド。彼らのロックは、70 年代の南部志向、特に Capricorn 産のアメリカン・ロックの匂いが充満。無骨というか、荒削りというか、骨太なロックを体現していて、しかも Stewart の入魂のヴォーカルと相まって、聴き応え十分。すべてが 70 年代のバンドがひょっこり現代に姿を現わしたかのような「音」だ。2013 作。Blue Rose)

\*MUSTARD' S RETREAT: 5 Miles Or 50,000 Years A  
(地震後の棚整理で発見！デビュー時から好きな 1970 年代から活動する二人組 {David Tamulevich & Michael Hough} の 1990 年のライブで発売は 1993 年作。本作は約半数が二人の心温まるオリジ

ナル曲で、残りは Greg Brown の“Barbershop Blues”や Merle Travis の“16 Tons”や Hy Zaret & Lou Singer の“One Meatball”等のフォークやブルースという構成で、米国フォーク流のストーリーテリングな唄の世界を楽しませる。唄が生きてる。全 14 曲。1993 作。Mustard's Retreat/発売年の古い CD です。検盤をしてお送りします)

- \*PROFESSOR LOUIE AND THE CROWMATIX:Wings On Fire a  
(The Band のロック・スピリットを受け継ぐウッドストックのロック・バンドの本作は Rick Danko と Levon Helm に捧げられたもので、そのスピリットは一段と高潔。彼らのロックは Levon Helm のスタイルを基本にニューオーリンズ色やロック色を濃くしたもので、そのエネルギーは熱い。ゲスト: John Platania, Michael Falzarano。2012 作。Woodstock)
- \*CASPAR BABYPANTS:Night Night A  
(本作は本当に平和な平和で、可愛らしい子守歌集。Chris の唄もサウンドも素朴でひたすら優しい。John B. Sebastian が気の合う仲間達とほんわかほんわか子守歌をうたったって感じ。音楽の響きの古き良き米国音楽っぽさにも親近感。CD 収納型簡易紙ジャケット。2015 作。Aurola Elephant Music)
- \*RICHARD DOBSON:Here In The Garden ¥1500  
(Townes Van Zandt や Guy Clark と共にテキサスのフォーク・シーンを引っ張ってきた Richard Dobson の六枚目。本作は Richard が 1999 年にドイツをツアーした時に組んだバンドのリダーの Thomm Jutz をギターと共同プロデューサーで迎えて制作したアルバム。本作は、うたうこと、バンド仲間と音楽することを楽しむかのように、ゆったりとロックン・カントリーしていて、快適。2013 作。Brambus)
- \*MIKE LAUREANNO:Pushing Back Wintertime B  
(Mike Laureanno は、今は亡き Jack Hardy のハイパートのヴォーカル・ハーモニーのシンガーとして、かれこれ 12 年間、Jack Hardy と活動を共にしてきた SSW。Jack に比べ、Mike の声はやや高めなのだが、押し殺したようなかすれた声まで似ているのだから。Mike は Jack から唄の心を学んだようだ。2013 作。Mike Laureanno)
- \*KEITH SYKES:It's About Time (1993 作。Oh Boy) A
- \*TOM RUSH:Celebrates 50 Years Of Music D  
(CD+DVDセット。Tom Rush の音楽人生 50 周年記念のライヴ。録音は 2012 年 12 月 28 日。DVD を見た。ゲスト {David Bromberg, Jonathan Edwards, Buskin&Batteau, Dom Flemons} 全員集合のもと、Tom Rush の唄“Hot Tonight”で幕開けした後、ゲストの唄が 7 曲。Tom の出番はその後、8 曲。ひょいっと 70 年代にタイムスリップ。映像で見る Tom は現役バリバリの印象。ボーナスにはインタビュー、リハーサル風景そして David Bromberg の“Tongue”他 4 曲がライヴで収録されている。CD は DVD 収録曲 16トラックから 13トラックを収録。2013 作。Appleseed)
- \*US RAILS:Heartbreak Superstar A  
(Tom Gillam, Ben Arnold, Scott Bricklin, Matt Muir, Joseph Parsons の誰もがヴォーカルを担う今日のアメリカン・ロック・シーンで、最も愛すべきバンドのひとつ、US Rail の新作。70 年代の主に西海岸のロック・バンドが保持していたアメリカン・ロックの土臭さや泥臭さを濃縮したロック

は、昔どこかで聴いたことがあるようなウォーカルやサウンドで、体にすこぶる美味しい。バンドの連中皆が、昔のロックに夢を馳せて、夢を追っかけてロックしているような素敵なロックだ。2013 作。Blue Rose)

\*THE DIRTY GUV' NAHS

:Somewhere Beneath These Southern Skies A

(ナッシュビルのがっつあるルーツ・ロック・バンド。本作は3枚目。ナッシュビルと言えば、昔はカントリーのメッカだったが、彼らのロックは南部っぽくて結構気骨があって、真に切なロックを体現する。リード・ウォーカルの James Trimble の、アメリカン・ロック魂のあるソウルフルなウォーカルは、骨太なバンド・サウンドと一体となって凄いインパクトがある。Levon Helm Band との共演、そして Levon Helm のスタジオでの録音経験もあるそうだ。ラストの“One Dance Left”では、Levon Helm っぽいウォーカルを振り絞ってもいる。2013 作。Blue Rose)

\*I SEE HAWKS IN L.A.:Mystery Drug A

(ヘンなグループ名。総勢8名編成のこのバンドは、1999年にLAで結成されたという。バンド編成はアルバムを出すごとに変わっていて、以前のアルバムには Chris Hillman も一員だったことも。唄も音楽も、まるで昔の西海岸の自然派カントリー系ロック達のように大らか。音楽を楽しむ空気が伝わってくる。2013 作。Blue Rose)

\*ANDREW CALHOUN:Living Room a

(本作で聴く Andrew の唄は、唄に揺ぎがなく、大きな優しさのようなものが感じられて、Andrew の SSW としての成長というか、円熟味が感じられるもの。自室でアコースティック・ギターを爪弾き、リラックスしてうたう Andrew の数々は、心穏やかにする。w. Casey Calhoun (Andrew の娘さん。素直な唄が気持ち良い)、Tracy Grammer, Jenna Rawling, etc. 2013 作。Waterbug)

\*AD VANDERVEEN:Driven By A Dream B

(Iain Matthews とのデュオ“Iain Ad Venture”の Ad Vanderveen の本作はとこところ Neil Young with Crazy Horse をもホッさせる思いっきりルーツ回帰&若かりし夢回帰の見事なアメリカン・ルーツ・ロック。至福保証。2012 作。Blue Rose)

\*DAVID MUNYON:Pretty Blue C

(D. Munyon の本作は、彼の人生を振り返る内容のアルバム。齢を重ねた David のしゃがれ声は益々味わいが深くなって、これまでの内省的ニュアンスのどのアルバムよりも心の底に響くものになっている。2011 作。Stockfish)

\*MICHAEL JOHNSON:Moonlit Deja Vu a

(ミネソタのウエスタン SSW の M. Johnson の 12 年振りの本作は月を眺めながらロマンティックな気分にはほんわかと酔うような感じ。ギター名手でもある寡黙だが、星の輝きのある美しいギターを伴奏に、ほのぼとと一人、そして娘の Truly や Maud Hixson 嬢とデュエットで、酔うようにうたう。2012 作。Red House)

\*MARK DVORAK:Time Ain't Got Nothin' On Me a

(フォーク・ギター、ブルース・ギターのギター演奏にも定評のある M. Dvorak だが、曲調により様々な表情を見せる鮮やかなギターの伴奏に乗ってうたわれる彼の唄は体の芯から暖まる優しい眼差しの穏やかで優しい

唄。ギターのメリハリがしっかりしているせいか、彼の穏やかな唄の穏やかさが引き立つ印象で、ふわふわと極楽な気分になる。ゲスト:

Michael Smith。2011 作。Waterbug)

- \*LONG GONE "Utah Remembers Bruce "Utah" Phillips a  
(70 年~80 年代、Utah Phillips 作の唄をうたう SSW が本当に多かった。本作は Utah の唄に影響を受けたという SSW の Kate MacLeod が Utah の息子の Duncan の協力を得て制作した Utahソング集。Philo が存在していたら、Philo が真っ先に企画しそうなアルバムだ。トラックの語りと一曲グループの唄以外の 16 曲は全て Utah の唄を愛する SSW によるギター等の弾き[奏き]語り。Kate MacLeod 以外は初耳の SSW ばかりなのだが、一曲一曲の「唄」が瑞々しく新鮮。2011 作。Waterbug)
- \*MAD BUFFALO:Red and Blue a  
(カントリー・ロックは不滅を実感させるナッシュビル of SSW の Randy Riviere がヴォーカルの Mad Buffalo。カントリー・ロックのスタイルだが、一つ一つの唄は Randy の SSW としての持ち味が出ていて、むしろその各曲の個性がカントリー・ロック・スタイルの音作りをどこかカントリー・マンのロマンっぽい深みのあるものにしていて、Randy の唄の味わいも深まっている。w. Reggie Young, Chad Cromwell [Neil Young Band], etc. Mad Buffalo)
- \*RANDY BURNS:The Simple Things a  
(昔のままの瑞々しい 2008 年作。CD-R。自主制作盤)
- \*CARTER BROTHERS:The Road To Roosky a  
(これは気合の入ったブルグラス系カントリー・ロック。カーター・ファミリーの家系の Tim&Danny 兄弟の本作はカントリー/ルーツ・ロックの深さが違う。骨太のカントリー・ロック。w. Sam Bush, Tim O'Brien, Ferrell Stowe。2011 作。Compass)
- \*ERIC ANDERSEN:Blue Rain C  
(E. Andersen の本作は闇の中で直向きでブルかつブルス色濃厚なルウエーでの 2006 年のライヴ。本作の彼は何かに取り憑かれたように凄い。2006 作。ルウエー-Blue Mood)
- \*ERIC ANDERSEN:Ghosts Upon The Road A  
(88 作。カタ Alert Music)
- \*BILLY C. FARLOW:You Better Run a  
(元 Commander Cody&His Lost Planet Airmen の Billy の本作は重厚な南部ロック。w. Mary-Ann Brandon, Fred James, Jeff Davis, Mark Horn。2011 作。ドイツSPV)
- \*GREG BROWN:Freak Flag A  
(ブルース、カントリー、フォーク等アメリカン・ミュージックの要素混在で、G. Brown 印の煮込み味 SSWアルバムを創作し続けて彼だが、本作も同じ。この旨みある味わいは彼にしか出せない。w. Bo Ramsey, Mark Knopfler, Richard Bennett, David Mansfield, etc. 2011 作。Yep Roc)
- \*GREG BROWN:Dream City B  
(副題"Essential Recordings Vol. 2, 1997 - 2006"。1997 - 2006 の間収録の Red House と Trailer の音源からの 16 曲と未発表音源からの 4 曲の二枚組。2009 作。Red House)
- \*AZTEC TWO-STEP:Days Of Horses a  
(初めて聴いた時、耳を疑った。Rex Fowler&Neal Shulman の Aztec の唄は彼らの 72 年のデビュー作と変わりなく、深緑の若葉のように清



々しい。二人によるヴォーカル・ハーモニーの初々しさは彼らならではのものの。2004年のベスト・アルバム。CD-R。Red Engine)

- \*RICHIE FURAY: I Am Sure a  
(Poco/Richie Furayファンだったら“The Heartbeat Of Love”と同じくらい歓喜の声を上げることに必至のベスト・アルバムが2005年の最高にご機嫌なRichieのアルバム。共演者はChris Hillman, Dan Dugmore, Jimmy Ibbotson, Bob Carpenter, Jeff Hanna, Michael Rhodes, etc. もうこれは出来すぎなくらいなRichieがリード・ヴォーカルのPoco風カントリー・ロック。全13曲。ItsAboutMusic.com)
- \*JAMES McMURTRY: Childish Things a  
(昨今のRay Wylie Hubbardクラスの泥臭く、ずっしり重みのあるアメリカン・ロック。ヴォーカルもサウンドも地鳴りがするほど鈍く唸りを立て凄みを放つ凄いロックだ。2005作。Lightning Rod)
- \*STEVE EARLE: Washington Square Serenade B  
(CDとDVDのセットの限定盤。DVDは国内プレイヤーで再生可。S. Earleの本作はまるでデヴィアズ・フィルムの霧囲みの、初期Dylanやそれを通り越してアメリカン・フォーク的土臭さに到達したりもする文字通りアメリカン・ミュージックの根っ子回帰志向アルバム。DVDはニューヨークのスタジオ・ライヴ3曲他で37分24秒。2007作。New West)
- \*PONDEROSA: Moonlight Revival A  
(南部アトランタから颯爽とデビューした4人組ロック・バンドのPonderosaは南部魂を持った、若いながら、今どき珍しく骨のあるアメリカン・ロック・バンドだ。南部系アメリカン・ロック・バンドのヴォーカルとしては理想的なKalen Nash [男性]のソウルフルなヴォーカルに粘っこいエレキ・ギターと重厚なロックはもう抜群。2011作。New West)
- \*KIP BOARDMAN: The Long Weight a  
(音楽的にはHarry Nilssonに近いだろうか。唄が自由に散歩でもするかのように軽やかで、豊かなイメージが広がる。ヴォーカルはSteve Forbertっぽい。Gia Ciambotti, Claire Holley, Kristin Mooneyの女性バックシンガー・ヴォーカルを含め、バック・バンドのサウンドがオール・アメリカン・ミュージックのスケールで巧み、かつ自在で見事。2010作。Ridisculous)
- \*STORYHILL: Shade Of The Tree a  
(自主制作で12枚のアルバムを発表し、2007年にRed Houseから“Storyhill”を発売し、多くのSSWファンを虜にしたChris Cunningham & John Hermansonのヴォーカル・デュオ“Storyhill”の本作は、SSWの唄心というか良心が詰まった湧き水のごとき清き逸品。2010作。Red House)
- \*JIM POST: Reach Out Together A  
(白髪の爺さんになったJimの声は軽やかで若々しい。Jimの飄々とした唄とMoby GrapeのJerry Millerの歯切れの良いギター、そしてRandy SabienのフィドルとAndy Steilのスライド・ギターやバンジョーはぴったり噛み合っていて、抜ける青空のような屈託のないJimの唄は最高に輝いている。2009作。Jim Post)
- \*GEORGE ENSLE: Build A Bridge A  
(Townes Van Zandtが「George Ensleは最も影響力のある尊敬すべきSSWの一人」と賞賛するテキサスのヴェトナムSSWのGeorgeの唄ほどこと

- なく Jerry Jeff Walker の風合いなのだが、精神が自由というか飄々としていて、唄に爽やかさが感じられる。Bill Staines 的な風合いも。SSWファンのお聴盤になること請け合い。2008 作。Berkalin)
- \*MARK STUART: Songs From A Corner Stage (99 作。Gearle) A
- \*BUTCH HANCOCK: War And Peace A  
(初期 Dylan を想起させる彼本来の粗い肌触りの引きずるような唄は流石。抜群の最近作。w. Joe Ely, Jimmie Dale Gilmore, Rob Gjarsoe。2006 作。Two Roads)
- \*ERIC TAYLOR: The Kerrville Tapes a  
(Kerrville Folk Fes でのライブからの全 10 曲。全曲ギターの弾き語りだが、鮮やかなアコースティックギターの伴奏とまるでスタジオ録音のような唄うことに集中した Eric ならではの情景描写が見事な心痺れる叙情的な唄の数々。絶品。2003 作。Silverwolf)
- \*THE NORMAN FISHINTACKLE CHOIR  
: One Kind Of Bait In The Bucket A  
(72 年作“Out The Window”と 73 年作“Shimmy She Roll, Shimmy She Shake”の Jim Pulte がヴォーカルのハント。昨今のスワンプ系アルバムでは最もスワンプ色が濃い。ファン感動保証。2007 作。Windstorm)
- \*DANNY FLOWERS: Tools For The Soul A  
(本作はカントリー調、初期 Ry Cooder 調、南部ロック調そしてゴスペル調 [結構 Leon Russell っぽい] 等、どれも唄も音楽の魂に触れるもので、一曲一曲アメリカン・ルーツ色が濃厚で土臭くかつ泥臭い。w. Emmylou Harris, John Cowan, Steve Mackay, etc. 2007 作。Brash Music)
- \*JIMMY HALL: Rendezvous With The Blues A  
(Johnny Sandlin のプロデュースでアラバマ録音の Wet Willie の J. Hall の本作はティンパニ・サズな本仕込みブルース。David Hood, Clayton Ivey, Johnny Sandlin, Jack Pearson, Bill Stewart 等による伴奏はデルタブルース色濃厚な南部ロック。3ボーナス・トラック付で計 14 トラック。2006 作。Rockin' Camel)
- \*TOM MAY: Blue Roads, Red Wine a  
(かれこれ 35 年以上のキャリアのヴァンペーパー SSW の T. May の本作はうたう心優しい旅人そのままに旅先の思い出の唄や友愛の唄や夢や希望の唄などがそっと優しくうたわれている。Tom のヴォーカルはそっと包み込むように優しい。ヒット・トラックが 1 曲隠されている。ほほえみの一曲。2008 作。Waterbug)
- \*WOODY GUTHRIE & PETE SEEGER: American Folk Songs a  
(全 20 曲。2005 作。USPS)
- \*DAVID MALLETT: Midnight On The Water a  
(2005 年夏のライブ。“Pennsylvania Sunrise”時代を思い起こさせる唄声に感激。2006 作。North Road)
- \*JACK HARDY: Noir a  
(本作は主に旅先で或いは旅の記憶をこの 10 年の間に唄に書き溜めた自作の唄 12 曲をハーモニー・ヴォーカルとフィドルの Kate MacLeod を含む気心知れた音楽仲間 4 名の最小限のバックアップでレコーディングしたもの。2007 作。Great Divide)
- \*A. J. ROACH: Revelation ¥1500

(ヴァージニアの山奥育ちで伝統音楽を聴き、若い頃古いアパールの聖歌をうたっていたという A. J. だが、彼の唄の芯の部分でカントリーやブルース等白人と黒人のルーツの音楽がミックスされた音楽性を保持し、伝統的聖歌やゴスペルの祈りから発した柔軟で逞しい意志のようなものが感じられる。Great!2007 作。Waterbug)

- \*TINSLEY ELLIS: Moment Of Truth A  
(南部ブルース・ロックの大御所登場。いやはや鳥肌立つブルース・ロックが次から次。エレキギターをかき鳴らし、大地揺らすブルース・ロックを叩き出す。全てが骨太で肉感的。w. Kevin McKendree, The Devil One, Jeff Burch, Mike Lowry, Michelle Malone。2007 作。Alligator)
- \*ALASTAIR MOOCK: Fortune Street B  
(SSWファンでも通好みのスルメ味 SSWアルバム。主に鮮やかなギターの伴奏でダミ声でうたう Alastair のざらっとした感触の唄は静かなインパクトがある。Chris Smither の“Train Home”のプロデューサー David Goodrich のプロデューサーは Alastair の個性を際立たせていて見事。Chris Smitherファンも是非。2007 作。オランダ CoraZong)
- \*RAMSAY MIDWOOD  
: Popular Delusions&The Madness Of Cows a  
(J. J. Cale 風いぶし銀南部ロック。Produced by Don Heffington [ドラムス]。w. Greg Leisz, Randy Weeks, Jake Labotz, David Jackson, etc. 2006 作。Farmwire)
- \*DAN HICKS&THE HOT LICKS: Featuring An All-star Cast Of Friends ¥2780  
(CD と DVD のセット。CD、DVD とも Dan Hicks の 60 歳誕生日お祝いコンサートのライブ。D. Hicks と縁のあるミュージシャンやシンガー総出演の素晴らしいライブ。DVD は PAL でコンサートの前のフィルムから笑わせる。至福保証。CD は全 13 曲で DVD は 2 曲多い 15 曲。2003 作。Surfdog)
- \*MICHAEL DE JONG: The Great Illusion C  
(フランス人 SSW [だが音楽は米国 SSW 系] の Michael [唄は英語] の本作は全曲ギターの弾き語り。一見 Bob Dylan の初期のようなシンプルなおとなの唄だが、心からの魂震わす唄は素晴らしい。SSW ファン必聴。2006 作。MW)
- \*MICHAEL DE JONG: Last Chance Romance C  
(人のロマンス等がとろけるように深く静かな空気の中で噛み締めるようにゆったりと唄われる。彼独特な独り言そして夢想の世界。2002 作。オランダ Munich)
- \*STEINAR ALBRIGTSEN&TOM PACHECO: Nobodies B  
(自主製作 CD-R。ウッドストックの Levon Helmスタジオで録音された 2000 年作。Tom も Steinar も激性を秘めた知的で叙事的で叙情的なヴォーカルが見事なもう一つの“Woodstock Winter”。w. Levon Helm, Rick Danko, Richard Bell, Scot Petito, Jim Weider, Happy Traum, John Sebastian, Jerry Marotta, etc. 2000 作。Tom Pacheco)
- \*TONY ARATA: Such Is Life A  
(CD-R。Tony はじっくり練り上げられた極上の唄を響きのいいアコースティックギターをお伴にゆったり噛み締めるように唄う。シンプルながら唄が深い。理想的 SSWアルバム。w. Dan Dugmore, Pat Alger, Lee Roy

- Parnell, etc. 2005 作。Little Tybee)
- \*TONY ARATA:Way Back When A  
 (Tony の唄は嬉しくなるほど心優しく心が澄んだ唄、そして音も清々しくてスイートなカントリー・ロック調。丁寧な音作りを含め、一曲一曲に彼の温厚さと誠実さがきっちりと込められていて、心のこもった手作りな作品として全てが温かい。70年代の良質のSSWアルバムと同じ感触。2000 作。Little Tybee)
- \*DAVID MASSENGILL:The Return ¥1050  
 (倉庫の隅で発見。95 作。Plump)
- \*RICHARD MEYER:The Good Life! ¥1050  
 (倉庫の隅で発見。92 作。Shanachie)
- \*TOM OVANS:Tale From The Underground (Great!95 作。NSR) A
- \*ROD MacDONALD:A Tale Of Two Americas A  
 (子の親になった Rod の「唄いたいこと山ほどあり」の思いがガンガン伝わってくるフォーク・シンガーの原点回帰の見事なアメリカン・フォーク。2005 作。Wild River)
- \*MARK ERELLI:Hillbilly Pigrim A  
 (M. Erelli の本作は古きカントリー・ミュージック回帰。Mark のカントリーは懐古趣味を超えて、今の新しいアメリカの音楽としての勢いがある。音楽スタイルは古いが音楽新鮮野菜。ゲスト:Erin McKeown。2005 作。Signature)
- \*JEFF WILKINSON:Landscapes C  
 (見聞きした不思議な光景や事件等をざっらとした感触の土臭いサウンドでどっぷり自分のペースで唄う。一曲一曲の自作の唄がタイトル通り Jeff の見聞きし、感じた「風景」のように唄として収まっている。全てが Jeff の時間の流れなのがいい。Brambus)
- \*BART DAVENPORT:Maroon Cocoon a  
 (子供の頃、ヒッピーだった両親のレコード・コレクションを聴き漁ったという彼だが、音楽性は 70 年代の夢想的ブリティッシュ・フォークあるいはソフト・ロック的感触で輝くギターを爪弾き、夢見心地な唄をゆったり描くように唄う。2005 作。Antenna Farm)
- \*RAY WYLIE HUBBARD>Last Train Of Thought (95 作。Deja) A
- \*DAVID BALL:Freewheeler A  
 (タイトル曲は Jesse Winchester のカバーだが、このカントリー系 SSW の D. Ball の本作はヴォーカルといいサウンドといいカントリー度が深い。ヴォーカルもサウンドも泥臭くエナジック。w. Mike Johnson, Kenny Malone, Milton Sledge, Dan Frizzell, etc. 2004 作。Acan)
- \*FRED KOLLER:No Song Left To Sell A  
 (どっしりとした SSW アルバムの傑作。Shel Silverstein との共作集で全 14 曲。2001 作。Gadfly)
- \*ERIC TAYLOR:The Kerrville Tapes A  
 (Kerrville Folk Festival のライヴ。2003 作。Silverwolf)
- \*J. T. VAN ZANDT:WRECKS BELL B  
 :Live At The Old Quarter Acoustic Cafe  
 (メンス・ヴァン・ザントの息子 J. T. が 8 曲と Wrecks Bell が 9 曲の全 17 曲入ライヴ。2004 作。Romeo)
- \*THE WOODYS:Teardrops&Diamonds A

(Byrds~Every Brothers~Gram Parsons 的全アメリカン・ミュージック・ファンの  
琴線に触れる懐古&郷愁ムードとロックする快樂さと恋する思い等が  
チャームに表出したほんわか気持ちのいいカントリー・ロック。w. Al Perkins,  
Dave Pomeroy, Cam King, Tammy Rogers, Steve Conn, Billy Block,  
etc. 2001 作。Dynamike)

- \*CELEBRATION! "Highlights From The 40th Philadelphia  
Folk Festival" A  
(2001 年 8 月 24~26 日に開かれたフェスのライヴ。全 13 曲。出演者は収録  
順に Arlo Guthrie, Laura Love Band, Sonia Solas, David  
Bromberg, Janis Ian, Richie Havens [All Along The Watchtower],  
Tom Paxton & Anne Hills, Chris Smither, Jimmy Johnson, Laurie  
Lewis, Tom Rush [Driving Wheel!], Judy Collins。2002 作。Sliced  
Bread)
- \*RECKLESS JOHNNY WALES: It's Not About The Money A  
(ユーモア、皮肉、悲哀など人生のひきこもごもをペーソス漂う唄でうた  
う凄く个性的で魅力的な SSW。Randy Newman に似てるが、Reckless  
の方が音楽的に開放感があって豊か。w. Jeff "Skunk" Baxter, Clive  
Gregson, Dave Pomeroy, Brian Willoughby, Cathryn Craig, Pat  
McInerney, Michael Snow, etc. 2003 作。Villa Villa Music)
- \*SAYLOR WHITE: Graven Image B  
(風貌は Willie Nelson 風。ヴォーカルは Jerry Jeff 風。どことなく時代  
遅れなおっとりした唄と土臭いサウンドはほのぼのとさせ、またしみ  
じみといい気分させる。ひ  
と言ひと言思い出に浸り、2003 作。Last Call)
- \*BILLY JOE SHAVER: Freedom Child A  
(オールタイム・ファイリングな Billy Joe の本作は自身のルーツ回帰の懐古趣  
味的な一方で、古いカントリーやブルース調の節での Billy のヴォーカルは古臭  
くも輝いている。2003 作。Compadre)
- \*DAVE SCHRAMM: Hammer And Nail ¥1980  
(内省的 SSW アルバムの傑作。99 作。ドイツ Blue Rose)
- \*SHAWN SAHM: Shawn Sahn A  
(Doug Sahn の息子 Shawn の Doug Sahn そっくり? なソニマリの本作。すっ  
かりサー・ダグ・ラス・クインテット風なテキサス・メックスとハスキーで甘い Shawn のヴォーカル  
は理想のテキサス音楽を体現。ゲスト: Doug Sahn, Augie Meyers, Flaco  
Jimenez。2002 作。イギリス Evangeline)
- \*PONTY BONE: Fantasize A  
(テキサスのドクター・ジョンとでも言うか、縦揺れ、横揺れたつぷりリスミカル。  
Ponty のおおらかな太いヴォーカルもいい、いい。ようこそ! ミラクルな  
Ponty Bone のテキサス・メックス・ショーの世界へ。2002 作。Loudhouse)
- \*DON WILLIAMS: Silver Turns To Gold A  
(いわば心の名曲集。SSWファン向けのいい唄ばかり。終始心和む。w. Sam  
Bush, Kenny Malone, Tim Williams, Charles Cochran, etc. 2002 作。  
RMG)
- \*DON MICHAEL SAMPSON: Old Wood Bridge A  
(2 枚組 CD-R。あの "Americansongs" の Don の悠々自適の自主制作盤。  
各種愛用ギターのアタックの強い巧みなギターを伴奏にした Don の唄は彼

のキャリアがしっかりと熟成されたしたたかでしなやかなもの。  
2001作。Red Rose)

- \*JEFF TARLTON:Astral Years a  
(米国人 SSW だが資質は英国人 SSW 的。90 年代初めに故郷を離れ、録音時はベッリンでストリート・ミュージシャン。マソコリックで宇宙的音楽は Nick Drake や Tim Buckley を思い出させる。全 20 曲の長い旅。97 作。Delerium)
- \*JEFF TARLTON:Dragin Spring a  
(前作の延長線上の 2 枚目。少し型にはまった分音楽的。やはり夢の異次元の世界へ。ベッリンでの録音。2000 作。Delerium)
- \*TONY JOE WHITE:One Hot July A  
(スワンプな煮込み味。T. J. White ここに在り!2000 作。Hip-0)
- \*ALAN GERBER:The Boogie Man A  
(スワンプ・ロック・ファン感涙の夕なスワンプ・ロック。99 作。Mugwamp)
- \*CALVIN RUSSELL:Crossroad B  
(ギター弾き語りライブ。ごっつい唄が全 16 曲。“想い”が乗り移った粗いギターと“想い”がこぼれんばかりの入魂の唄に釘づけ。2000 作。Last Call)
- \*CALVIN RUSSELL:Sam B  
(テキサスのヴァンセン SSW の 8 枚目。プロデューサーが James Luther Dickinson で、バックには Roger Hawkins, David Hood, Brenda Patterson の面々。ロングセラー。99 作。Last Call)
- \*TOM ROZNOWSKI:Voice Beyond The Hill A  
(T. Roznowski の温厚な人柄が滲み出た心優しい SSW アルバム。70 年代っぽい味と心あるカントリー・ロックが Tom の持ち味を最高に高めている。w. Jon Randall, Rob Ickles, James Talley, Brent Truit, Richard McLaurin, etc. おやじ感涙保証。2001 作。Blazing Stump)
- \*HUNTER MOORE:Conversations B  
(ナッシュヴィルの SSW。H. Moore の本作は Chris Donohue {ハース}, Phil Madeira {エレクトリック・ギター}、Steve Hindalong {ハカッション} の小編成ながらソリッドかつタイトなルーツ・ロック。Hunter の乾いた粗野なヴォーカルか何とも言えず魅力。2001 作。Brambus)
- \*HUNTER MOORE:Delta Moon B  
(その昔のベスト・セラー。やや南部寄りかつ繊細さも持ち合わせた本作は今聴いても新鮮。SSW 名盤。w. Kenny Malone, Bob Wray, Russ Pahl, etc. 96 作。Brambus)
- \*JERRY JEFF WALKER:Mr. Bojungles C  
(2 曲のボーナス・トラック付の計 12 曲入。68/93 作。Rhino)
- \*TAJ MAHAL&THE HULA BLUES BAND:Hanapepe Dream B  
(西アフリカのお次はハワイ!?Taj の渋いヴォーカルもバンドの音楽もユルユルで心地よいロール感があって、ご機嫌。Taj の各種ギターはもちろんのことウクレレやスティール・ギターも最高の響き。夢心地保証。2001 作。ドット&M)
- \*MAIN STAGE LIVE “Falcon Ridge Folk Festival” A  
(Kennedys, Dar Williams, Greg Brown, Richard Shindell, Nields, Patty Larkin, Peter Mulvey, Vance Gilbert and more。全 14 曲。99 作。Signature)
- \*TOM MITCHELL:When The Moon Is Right ¥1000

(時折、Bob Carpenter をホフさせる世界をも垣間見せる。SSWファン静かなる衝撃作。96作。Truesongs)

- \*ELLIOTT MURPHY・IAIN MATTHEWS:La Terre Commune A  
(異色のデュオ。それぞれの口の持ち味とデュエットがフランスよく収められた友情盤。2001作。ドットBlue Rose)
- \*CHRIS SMITHER:Live As I'll Ever Be B  
(何も言うことなし、C. Smither の持ち味そのままが発揮されたギター弾き語りライブ。録音は96-99年。全16曲。Hightone)
- \*DAVID MUNYON:Acrylic Teepees B  
(いつも夢想的で透明な D. Munyon の唄の世界。w. Al Perkins, Dave Pomeroy, Craig Krampf. 珠玉の逸品。96作。Glitterhouse)
- \*DAVID MUNYON: Slim Possibility B  
(ある種神聖とも形容できる D. Munyon 独特な唄の世界だ。非の打ち所のない潔癖さだ。理想のSSWアルバム。96作。Stockfish))
- \*JEB LOY NICHOLS:Just What Time It Is a  
(ベアーズガイル録音の傑作“Lovers Knot”に次ぐ待望のNew。しばし南部&トロピカル・フィーリングのある本作に夢心地…。知性と感性と職人ワグと三拍子揃った傑作。2000作。Rough Trade)
- \*JERRY JEFF WALKER:Night After Night D
- \*BUTCH HANCOCK・JIMMIE DALE GILMORE:Two Roads a
- \*MARK STUART:Songs From A Corner Stage(1999作。Gearle) a

### [CD/USA {female}]

- \*EMILY ARROW:Storytime Singalong Vol.2 A  
(早くもVol.2!!!聴くく前からワクワク。彼女の絵本からイメージして作詞作曲した唄と音楽は、前作同様に小春日和で胸キュンな素敵な唄とカラフルな音楽で弾けていて、絵本の世界をルンルン遊ぶ感じ。新たにタッグを組むプロデューサーのCazz Brindisのギターやピアノやドラムスや木琴や口笛や不明楽器などの楽器の操り方もルンルン・サウンドで、音を聴いてるだけでもハッピーハッピー！歌詞にも出てくるが、“Everybody smiles”な一枚。ご家族でお楽しみ下さい。2017作。Emily Arrow)
- \*QUILES & CLOUD:Shake Me Now A  
(Maria Quiles {ヴォーカル、ギター}とRory Cloud {ヴォーカル、ギター}の男女のデュオの三枚目。Roryは当時勤めていたサンフランシスコのトヨタ・カローラでMariaの生を聴いて、彼女のギター・プレイに自身を感じたという。基本的に本作はリード・ヴォーカルとリード・ギターを担うMaria Quilesのソロ的性格が強い。実際、彼女の鮮やかなアコースティックギターの演奏は、耳に新鮮かつ、彼女のルーツ志向の古色感と陰り感のあるヴォーカルは、静かに心の奥底に響く。素朴な米国臭い唄と音楽だが、フォークやブルー スヤカントリーなどをミックスした音楽の味わいが深く濃い。Mariaの力を抜いたヴォーカルと泣きのギターによるDylan作“You Ain't Goin' Nowhere”などは、静かに心を揺さぶる。Produced by Alison Brown. 2017作。Compass)
- \*NELL ROBINSON & JIM NUNALLY BAND

- :Baby Lets Take The Long Way Home A  
 (大注目のカントリー系女性SSWのNell Robinsonと元デヴィッド・グリスマン・バンドの名フラット・ピッカーのJim Nunally率いるバンドとの新作。Emmylou HarrisにMaria Muldaurの艶っぽさをまぶしたようなNellの魅惑のヴォーカルとJim率いるバンドの素朴で明快なカントリー・ロックは、まるで1970年代回帰のカントリー・ロック。昔取った杵柄で、みんなが楽しめて、手応えの感じられる音楽を創ったら、こんな音楽が出来ちゃった風の憎い憎いカントリー・ロック。あの時代のカントリー・ロック・ファンはぞっこん保証。2017作。Whippoorwill Arts)
- \*BANKESTERS:Nightbird A  
 (Alysha {マンドリン、フィドル}, Emily {フィドル、バングォー}, Melissa {ベース}の三姉妹シンガーのソロとハーモニーをフィーチャーし、父のPhil {ギター}とMelissaのご主人のKyle {バングォー、ギター}が三姉妹の魅惑の唄の縁の下の力持ち役で共演したBankesterファミリーの6枚目。2017作。Compass)
- \*LAURA CANTRELL:Kitty Wells Dresses B  
 (Lauraの4枚目に当たる本作は、Lauraが子供の頃からのファンというカントリー・シンガーのKitty Wellsのカヴァー集。スティール・ギターを含めたカントリー・サウンドの全てがハワイ音楽のような清涼感があって、清々しい。2011作。Shoeshine)
- \*BETSE ELLISE:High Moon Order A  
 (The Wildersのヴォーカル、フィドルのBetseのソロ。13曲中7曲が自作曲で3曲が伝統曲。彼女のフィドル演奏はザークスタイルのオールド・タイム・フィドルだそうで、僕の耳にはJohn Hartfordの女性版のように聞こえる。今の世の中にこんな音楽あり?!とってしまうほど、ホームメイドな古臭くて、飄々とした唄と音楽だ。2013作。Tree Dirt)
- \*ALICE GERRARD:Bittersweet A  
 (かれこれ40年以上にわたって、アメリカン・ルーツ音楽の第一線で活動してきたAliceの10年ぶりの本作は、全曲自作曲の深い味わいのある素晴らしいSSW/フォーク・アルバム。体の中から湧き上がるようなリラックスした唄は、いぶし銀のアメリカン・ルーツ・サウンドを伴って、ある時は心に沁み、またある時は心を和らげ、またある時は心をほがらかにさせる。いぶし銀のアメリカン・ルーツ音楽の名品だ。w. Laurie Lewis, Stuart Duncan, Bob Ickes, Bryan Sutton, Todd Phillips, Tom Rozum, etc. 2013作。Sprouce And Maple Music)
- \*CATHRYN CRAIG & BRIAN WILLOUGHBY:Real World a  
 (ナッシュビルの女性SSWのC. Craigとブリティッシュ・フォーク・グループのストロブスのギター奏者のBrian Willoughbyのデュオによる本作は、Brianの美しいブリティッシュ・フォーク・ギターとCathrynの大人のメルヘン調の穏やかな唄とが何とも心地よい“Real World”ではなく、“Dreamy World”。ずっと聴いていたい気分。2013作。Cabritunes)
- \*ANNIE KEATING:Water Tower View a  
 (ひと味違う凝ったルーツ・ロックは本醸造ルーツ・ロック・ファンを唸らせる。こんなにセクスの良いかしたルーツ・ロックは滅多にお耳にかかれない。Annieの唄は、セクス抜群の大人のルーツ・ロック・サウンドと共に心と体に美味しい。



w. Bo Ramsey, Jason Mercer, Chris Benelli, Chris Tarrow, John Caban, etc. 2010 作。

Annie Keating)

- \*COSY SHERIDAN: The Horse King a  
(ウエラン女性 SSW の Cosy の本作はひと味違う。様々なサウンドを創り出すアコースティック・ギターの妙技に驚かせられながら、Cosy の唄の世界へとご機嫌に誘われてゆく。音楽性の基本は Good & Old Time なアメリカ・ミュージック。巧みなウエに裏打ちされた音楽は豊かで柔らか。心晴れ晴れする爽快な SSW アルバムだ。w. David Surette, Kent Allyn, Penny Nichols, TR Ritchie. 2011 作。Waterbug)
- \*CAROLINE HERRING: Camilla A  
(Caroline の音楽性はフォーク/ルーツ・ロック系だが、その中身は自分の物語を含めて、アメリカの物語。Lucinda Williams 級。ゲスト: Jackie Oates, Mary Chapin Carpenter, Aoife O'Donovan, Kathryn Roberts。最後の曲はパート・パースの「蛍の光」だが、Caroline は自作のメロディに乗せてうたっている。2012 作。Signature Sound)
- \*JANIVA MAGNESS: Stronger For It A  
(Janiva の渾身の唄とバンドの南部ロックが、ガツと組み合って、感動の嵐。2012 作。Alligator)
- \*FRED JAMES & MARY-ANN BRANDON: We Belong Together a  
(ナッシュヴィルのウエラン SSW & ギタリストの Fred James とナッシュヴィルのスワンプ・クインの Mary-Ann の共演盤。Fred の SSW 的資質と Mary-Ann の南部ブルース & R&B 資質のぶつかり合いは Fred が Mary-Ann の大きな土俵の上で、自身のエレキギターを含め、ガツあるウエカで精一杯対抗する風ながら、Fred は +α の南部っぽい底力を見せ付けている。Mary-Ann のウエカは豊潤なウエカで聴き手を圧倒する。2011 作。ドゥイ SPV)
- \*WHEN OCTOBER GOES (1991 作。Philo) A
- \*NANCI GRIFFITH: Little Love Affairs (1988 作。MCA) A
- \*NANCI GRIFFITH: Flyer (1994 作。Elektra) A
- \*REBECCA PRONSKY: Viewfinder A  
(ブルックリンの女性 SSW の Rebecca の唄は独特。音楽的には Gillian Welch や Eilen Jewell のような古いルーツ・フォークやルーツ・ロック的な志向性を持ちつつ、トゥーンギンギン・ギターの多用に加え、声が豊かで、夢想的で朗々としたウエカなど、彼女独特な唄世界を創作している。都会のビルの一室で、夢想しているかのような音楽。2011 作。Nine Mile)
- \*LIZ MEYER: The Storm A  
(カントリー・フォークの女王 Liz の本作は昔からの音楽仲間や中堅音楽家の協力を得て実現した夢に描いてきた同窓会音楽。Bela Fleck, Emmylou Harris, Jerry Douglas, Sam Bush, Stuart Duncan, Rob Ickes, Byron House, Glen Duncan, Ron Block, Kenny Malone 他。2005 作。オンタ Strictly Country)
- \*CARRIE RODRIGUEZ: She Ain't Me A  
(Chip Taylor とデュオを組んでいた Carrie の二枚目。本作でデュエットする Lucinda Williams 級。2009 作。Continental Song City)
- \*KRISTA DETOR: Chocolate Paper Suites a  
(前二作同様、プロデュースは David Weber で、そしてまた前作同様、自身

が奏でるピアノの響きが印象的で、時空を超えて、Kristaが創作する  
穏やかで、深く心地よい唄の世界へと運ぶ。Chris Wood, Karine  
Polwart, Emily Smith, Maura Smiley, Rachel McShane, Malcolm  
Dalglish, etc. 2010 作。CoraZong)

- \*RACHEL HARRINGTON: The Bootlegger's Daughter A  
(2008 年作の“City Of Refuge”が好評の Rachel の 2007 年作のデビュー作。Rachel の唄を包む空気は百年前のアメリカ西部、或いはアパラチアだったり、今日のルーツ・ロック風だったり、また今日の田舎の SSW 風だったりする。2007 作。Skinnydennis)
- \*LINDA HARGROVE: One Woman's Life A  
(カントリー・フォーク系のヴァンセン SSW の Linda の本作はヴァーカも音作りもヴァンセンの風格漂う Great な SSW アルバム。名うての楽士達のバックアップが見事。Linda の揺るぎ無い唄に相応しい演奏で支える楽士は Sam Bush, Kenny Malone, Jeff Davis, Dennis Burnside, Pam Rose, Hoot Hester, etc. 2005 作。Panacea Productions)
- \*KATE McDONNELL: Where The Mangoes Are B  
(Kate の本作が 4 枚目。Kate ならではの壊れそうで逞しい唄たちだ。Kate は今を唄う吟遊詩人。2005 作。Appleseed)
- \*SUZANNA SPRING: She's Got Your Heart A  
(本作は敏腕プレイヤーによる奥深くもピリッとカッコいいルーツ・ロックの見事さ中で女性ならではの哀愁や感傷や夢想等の感情が実にいい感じで美味な唄として結実している。カッコいい音の波に乗ってる、って感じた。2003 作。Suzanna Spring)
- \*CLARE MULDAUR: Bentley Circle ¥700  
(Geoff&Maria の娘 Clare の 2 枚目。Clare の夢見るような素朴な唄の数々とこれまた夢見るような素朴なギター、チャリンコ、アコーディオン等の伴奏の音色の心地よさは憎いほどの素敵さ。2003 作。Clare Muldaur)
- \*WENDY BECKERMAN: Mango Moon A  
(Jack Hardy おかかえのミュージシャンがバックを固めた Wendy の 3 枚目の 96 年作。Wendy の持ち味がシンプルにリカルに表出。唄の自由さと彩りのある素敵な女性 SSW アルバム。Brambus)
- \*FLORAMAY HOLLIDAY: Floramay Holliday B  
(南キャライの女性 SSW。Kelly Willis と比較されることの多い SSW だが、Floramay の方がロック的で南部志向。エレキギターを内にキープした本格的ヴァーカをテキサスのヴァンセン達が本醸造ロックでサポート。w. Lloyd Maines, John Inmon, Gene Elders, etc. 98 作。Roseneath Music)
- \*ROSALIE SORRELS: No Closing Chord a  
(Malvina Reynolds ソング集。w. Bonnie Raitt, Laurie Lewis, Nina Gerber, Barbara Higbie, etc. 2000 作。Red House)
- \*PEGGY SEEGER: Love Will... Linger On... a  
(副題“Romantic Love Songs”。子守唄のように夢心地な唄達。  
w. Colum&Nei MacColl, Irene Scott, etc. 2000 作。Appleseed)
- \*KIM RICHEY: Bitter Sweet (97 作。Mercury) A
- \*MARIA MULDAUR: Meet Me At Midnite (1994 作。Black Top) A

## [DVD/CANADA] PAL 2

※PAL 専用 DVDプレーヤー/パソコンで再生可能

\*NEIL YOUNG:Heart Of Gold

D

(2枚組。ディスク1はドキュメンタリー+ライヴ1曲で、ディスク2は2005年ナッシュビルでのライヴ。全19曲。w. Emmylou Harris, Ben Keith, Spooner Oldham, Karl Himmel, Chad Cromwell, etc. ディスク2のライヴは一曲一曲が聴き所、見所。2005年。オランダ Shangri-la)

## [DVD/CANADA] NTSC all regions

※国内製 DVDプレーヤーで再生可能

\*LEONARD COHEN:Under Review 1978 - 2006

B

(カナダを代表するSSWのL. Cohenの多数の希少ライヴ映像を含む貴重映像と写真を挟みながら John Simon, John Lissauer, David Cohen 等 L. Cohen のプロデューサーやジャーナリストがアルバムを追いながら彼の音楽を語るドキュメンタリー-DVD。64分。2008作。Sexy International)

\*RONNIE HAWKINS:Still Alive And Kickin'

B

(The Bandの前身 The Hawks のリーダーでカナダのロック界のホースの Ronnie Hawkins の Hawks 時代の貴重ライヴ映像や今日のバンドのライヴを挟みながら、癌の手術そして快復等 R. Hawkins の普段着の姿と音楽人生が記録された DVD。Robbie Robertson, Kris Kristofferson, クリントン元大統領が R. Hawkins を語る。約90分。2004作。CTV)

## [CD/CANADA]

\*GOOD LOVELIES:Under The Mistletoe

B

(Caroline Brooks, Kerri Ough, Sue Passmore の女性ヴォーカル・トリオの Good Lovelies の新作はクリスマス・アルバム。これはすっかり Good Lovelies 流に古き良き米国音楽のムードに彩られたクリスマス・ソングの数々は、ほわっと夢見心地。彼女達のオールドタイムーで、スウィングーで、ポップーで、ちょいひねりのあるスウィート・ハーモニーは、戦後米国が豊かだった時代の懐かしのポピュラー・ミュージックを聴くようなノスタルジックさを醸し出している。米国の一般市民{お年寄り}もニコニコなクリスマス・アルバム。2016作。Good Lovelies)

\*BLUE RODEO:1000 Arms

B

(1984年結成のカナダのヴェテラン・カントリー・ロック・バンドの Blue Rodeo の新作は、西海岸カントリー・ロックの王道を突き進む信じられないほど爽快なカントリー・ロック。現在のメンバーは Greg Keelor {ヴォーカル、ギター}、Jim Cuddy {ヴォーカル、ギター}、Bazil {ベース} のオリジナル・メンバーに Glenn Milchem {ドラムス}、Michael Boguski {キーボード}、Colin Cripps {ギター、ヴォーカル} の六太郎。Poco と Byrds の美味しいところを清々しく受け継いでいて、感涙。彼ら、音楽で青春してますね。2016作。TeleSoul)

\*BLACKIE AND THE RODEO KINGS:South

A

(Stephen Fearing, Colin Linden, Tom Wilson, John Dymond, Gary Craig の Blackie&The Rodeo の2014年のアルバム。Willie P Bennett を愛するツワモノ達の一時的なバンドかと思っていた

ら、今年結成 20 周年で、本作は 8 枚目。フォーク系の S. Fearing, カントリー&南部系の T. Wilson, 南部系の C. Linden のそれぞれの SSW がこのバンドのために自作曲を持ち寄って、それぞれの個性を活かした年季の入ったルーツロックを創作しているのだが、特に Willie P の資質に似た持ち味の T. Wilson と南部志向の C. Linden の二人がリード・ヴォーカルを担う曲の土臭さや泥臭さは、Willie P + α の味わいを醸し出していて、圧巻。2014 作。FU:M)

- \*BLACKIE&THE RODEO KING:High Or Hurtin' B  
(Stephen Fearing, Colin Linden, Tom Wilson から成る "Blackie" の 1996 作。True North)
- \*BROOKE MILLER:Familiar D  
(Super Audio CD。プリンスエドワード島育ちの女性 SSW でギタリストの Brooke Miller は、Bruce Cockburn の緻密さと Joni Mitchell の繊細さを併せ持つカナディアン SSW らしいアーティスト。カナダの *カナダ* の SSW アルバムとして完璧。ギター・ファンも唸るよ。2012 作。Stockfish)
- \*STEPHEN FEARING:That's How I Walk B  
(最強の SSW, S. Fearing の New は、朋友 Colin Linden の強力応援を得、Stephen の感性鋭いシャープな唄が、より深みと味わいをもって心に突き刺さる。w. Colin Linden, Richard Bell, Shawn Colvin, Jonelle Mosser, Ben Riley, etc. 2002 作。True North)
- \*RICHARD NEVILLE:Old Souls A  
(Richard Neville は *カナダ* 東部の *ラブラドル* 半島の SSW。ラブラドル半島の人々や文化に触発された自作の唄の数々は、ほっこりしていて、古くからの友の唄を聴くように体にしみわたる。例えば、田舎暮らしをしていて、穏やかになった Gordon Lightfoot のようなメロディの唄。自身のギターの弾き語り + 軽やかなカントリー・ロック風サウンドは、彼の温厚な唄とともに何とも心地よい。SingSong)
- \*BONNIE DOBSON:Take Me For A Walk In The Morning Dew A  
(Bonnie Dobson の 2014 作。録音は英国のロンドン。Her Boys と名付けたグループ {B. J. Cole もメンバー} を伴って制作された本作は、衰えを知らぬ歌声と決して懐古趣味的ではないソリッドなアコースティック・フォーク ~ フォーク・ロックに現在進行形の今の Bonnie の音楽が瑞々しく表出されている。12 曲目の "Sandy Boys" などは Fairport みたいな気力充実のフォーク・ロック。2014 作。Hornbeam)
- \*ANNE JANELLE:So Long At The Fair A  
(*カナダ* のフォーク・ミュージック賞受賞の James Hill & Anne Janelle の Anne の 2 枚目。Anne の音楽的才能は並外れている。一曲目では、ケック・トラッドのタップ・ダンスのリズムを伴奏にトラッドの名曲 "Black Is The Colour" を Anne は自身のヴォイスを重ね録りして、女性トリオのアカペラ風音楽で驚かせたかと思えば、ユーエフ感覚ある *ノルウェー* の音楽や古いスタンダード・ジャズ・ムードの音楽や古いカントリー・ムードの音楽や古楽ムードの音楽などで、あの手この手でゆったりとくつつろがせる。*カナダ* にはなぜか古い音楽をベースにした多才な女性フォーク系シンガーが多い。2013 作。Anne Janelle)
- \*IAN TAMBLYN:Side By Each B

(海の生き物に心を寄せ、旅の思い出を回想する Ian の心の唄は、本作において、一段と穏やか。ギターの良い響きなど、ふと“High Winds White Sky”の頃の Bruce Cockburn を思い出した。w. Rebecca Campbell {彼女のほわっとしたハーモニーヴォーカルは Ian の音楽に欠かせなくなっている}, Fred Guignon, Pat Maher。2013 作。North Track)

\*IAN TAMBLYN:Gyre B  
(「四つの海岸プロジェクト」は一休み。地球を旅する Ian のその感動の瞬間の心情が一枚の印象的な風景写真のように詩的に詠まれ、うたわれている。本作は W. G. Tamblyn {1923-2009}, Willie P. Bennett {1951-2008}, M/S Explorer {1968-2007} の霊に捧げられている。評価する隙を与えない名作。2009 作。North Track)

\*IAN TAMBLYN:Superior - Spirit And Light B  
(本作は四つの海岸プロジェクトの 1 作目で、I. Tamblyn が育ったところであり、音楽の旅のスタート地のスペリオル湖と北西オタワに焦点を当てたもの。本作は青春時代を過ごした湖の生活に想いを馳せ、心遊ばせた唄たちが収められている。煌々ギターの演奏ほか生まれた音楽は細心の音作りが成され、Ian のまさに“Spirit and Light”に象徴される魂が乗り移った唄はかつてなくとも言っても過言ではない程彼らしいヒューマニティーと詩情を高めている。2007 作。North Track)

\*IAN TAMBLYN:Angel's Share B  
(Ian Tamblyn らしい素晴らしいアルバム。旅する SSW の Ian の目に映る世界はどれも霊的なほど美しく神秘的に輝いている。感動的な風景や旅の出来事の詩的描写の見事さは本作においてもなお絶品。w. Rodney Brown, Rebecca Campbell, Ken Kanwisher, Fred Guignon, etc. 2004 作。North Track)

\*JENN GRANT:The Beautiful Wild A  
(カナダの女性 SSW、Jenn の 4 枚目。米国の女性 SSW の Meg Christian のようなゆったりと漂うような唄なのだが、Jenn は深いポップ・ロックサウンド効果もあって、奥が深い。またイントロから始まり、Neil Young の「孤独の旅路」っぽい 2 曲目から夢の旅路へと誘って、ラストの 12 曲目、子ども達の唄で終わったかと思っていると、しばらくして Jenn のピアノの弾き語りという展開は長い夢の唄の旅をした気分させる。プロデュースは Daniel Ledwell。2013 作。Blue Rose)

\*AMELIA CURRAN:Spectators A  
(Amelia は絶望や寂しさの中から光を求めるような唄が多く、唄から漂う雰囲気は Natalie Merchant を想起させる。闇の中で「キラ」の素敵な唄たちだ。どこかで 70 年代 SSW のスピリットを引きずっている感じだ。ゲスト:Oh Susanna。2013 作。Blue Rose)

\*OLD MAN LUEDECKE:Tender Is The Night A  
(ここ数年で最高にお気に入りのカナダの SSW。この自ら「老人」と名づけたパジャマ弾き SSW のおっさんが住む世界は、唄の世界も音楽的にも田舎っぽい、同時に夢のような世界。その夢のような世界がもう最高。なぜか Tim O'Brien がプロデュースをやっていて、様々な楽器と唄で、まるで長年の相棒のようにわきあいあいと共演している。本当に魅力的な SSW だ。2012 作。True North)

- \*DAVID FRANCEY:Live From Folk Alley A  
 (2005年11月、Kent State Folk Festivalでのライブ。伴奏はShane Simpsonのギターのみ。Davidの唄の世界は流れる風景や絵本を眺めているように映像的だ。最後から2曲目の“Morning Train”は、キリスト、ブッダ、アラーと駅や列車内で出会う唄だ。最後に出会うのは悪魔。発想が面白く、実に面白い唄だ。全曲訳詩が欲しいところ。素晴らしい唄と一緒にフェスの空気も味わって欲しい。2012作。Greentrax)
- \*MURRAY McLAUCHLAN:Swinging On A Star(1988作。カナダEMI)B
- \*MURRAY McLAUCHLAN:The Songbook...New Arrivals a  
 (M. McLauchlanの本作は“Eddie”というミュージカルの為にMurrayが作詞作曲した14曲入。Murrayの唄は古いジャズやポピュラーソングを唄うようにソフトでスワッグで粋なサウンドにのってうたうMurrayの唄は気持ちいい。2006作。EMI)
- \*LUNCH AT ALLEN'S:More Lunch At Allen's B  
 (Lunch At Allen'sはトロントにあるAllen's Pub&RestaurantでMurray McLauchlanが旧友のMarc JordanとIan Thomasを誘ってスタートさせたグループで、後にCindy Churchを誘って活動を継続してるライブ専門のヴォーカルグループ。2010作。Linus)
- \*RAY BONNEVILLE:Bad Man's Blood a  
 (南部ロック志向SSWのR. Bonnevilleの新作は南部魂を内にしっかりと込めた泥臭い南部志向音楽。好きものには贅沢な料理だ。噛むごとに舌鼓保証。Rayの最高傑作。2011作。Red House)
- \*WAYNE ROSTAD:Storyteller(1991作。Stag Creek) C
- \*DAVID WIFFEN:South Of Somewhere(1999作。True North) C
- \*MAE MOORE:Folklore A  
 (カナダの自然や大地の自然現象や風景を入口に夢物語の世界へと誘うカナダ人のセンスが微細に発揮された見事な女性SSWアルバムだ。Maeの唄はどの唄も自然や大地を描いた不思議な絵のよう。すぐにイメージするのはやはりJoni Mitchell。Maeの音楽性は丁度Joni Mitchellの初期からジャズっぽい“Court And Spark”までの幅でキラと光るサウンドと唄とで魅了する。カナダのSSWの感性が光る名盤だ。2010作。Poetical)
- \*DEVON SPROULE:Don't Hurry For Heaven! A  
 (カナダ生まれの米国ヴァージニア州の100人のコミュニティで育ったDevonの本作は60年代~70年代ロックの感触の諧謔的音楽を含め子悪魔的魅力全開。2010作。Black Hen Music)
- \*DEVON SPROULE:Upstate Songs A  
 (2003年作。アコースティック演奏による軽やかにひるがえるヴォーカルの少女っぽさと新鮮さそして夢見心地さはずこぶる魅力。胸キュン。2003作。Tin Angel)
- \*JOHN WORT HANNAM:Queen's Hotel A  
 (本作が四枚目というカナダのSSWのJ. W. Hannamの第一印象はRodney Brown。ヴォーカルの質も似ているが、Rodneyのようにマイペースで、温厚で、どこか爽やかな風が吹いているような感じも似ている。違うのはこちらの方がやや渋めというか、一歩引いた大人の哀感も感じられることだろうか。さりげなさがとても快い良質のSSWアルバムだ。

- w. Steve Dawson, John Reischman, Jenny Whiteley, etc. 2009 作。  
Black Hen Music)
- \*COLIN LINDEN:Sad&Beautiful World 1975-1999 A  
(The Band 系南部ロックに深く傾倒する C. Linden の初期音源中心の 18  
曲入編集 CD。2004 作。True North)
- \*GREAT LAKE SWIMMERS:Lost Channels a  
(カントリー・ロック・ファン大推薦。かれらの音楽は 70 年代ロックに夢のヴェールを掛  
けた感じで、70 年代ロック・ファンの弱い部分をくすぐる夢の音世界を創  
作し切っている。天下一品。2009 作。イギリスNettwerk)
- \*FRED EAGLESMITH:Dusty A  
(Fred の本作は何と言うか鎮魂歌のように物悲しく緩やかに流れ  
てく。祈るような Fred のヴォーカルはじわりじわりと感動的。Scott  
Merritt のプロデュースはこれまでの Fred のルーツ・ロック的音作りとは一  
線を画した自由な発想による唄のイメージに即したものの。絶品！  
Major Label)
- \*VEDA HILLE:This Riot Life A  
(通算 12 枚目になる個性的 SSW の Veda の本作は不思議音楽。ピアノで音  
遊びしながら生まれたような彼女の唄は独り夢の中を旅する感覚  
の音楽。2008 作。Ape House)
- \*VALDY & GARY FJELLGARD:Still In The Running A  
(副題“Contenders Two”。まさかの二人の嬉しい 2 枚目。齢を重ねた  
じいさん SSW お二人の温かな唄達。昔っから好きな Valdy のヴォーカル  
は相変わらず。Ian Tamblyn の“Bay Of Sails”や John Prine の  
“Speed Of The Sound Of Loneliness”や Micky Newbury の“Them  
Old Snogs”等二人それぞれがヴォーカル&デュエットで人なつっこそうな  
唄を二人の活きの良いギターとマンドリンの伴奏でうたう。ヒューマン・ソング・  
ファン、心あったか保証。2007 作。Stony Plain)
- \*TIM WILLIAMS:Songster, Musicianer, Music Physicianer A  
(ホトネック・ギター等ブルース・ギターを弾き年季の入ったブルースやブルース風自  
作曲を悠々とうたう。長年活動を共にしているバンドが数曲で共演  
してはいるが、バンドのヴォーカル&ギターとしての印象よりブルース・タイプ  
の SSW 的なコのある味わい。一匹狼の風格。2007 作。Gayuse Music)
- \*EILEEN McGANN:Beyond The Storm(Dragonwing) A  
\*JANE SIBERRY:Shushan The Palace A  
(カナダの女性 SSW の Jane の本作は副題“Hymns of Earth”のクリスマス時  
期にあわせて制作された主に数世紀前のペンテルやバツァ作曲曲を含  
む聖歌集。Jane ならではの優美な聖歌の世界。2003 作。Sheeba)
- \*ENNIS SISTERS:Christmas B  
(ニューファンドランドの美人 3 姉妹による美しいクリスマス・アルバム。トラッド色  
も無いことも無いが、彼女等本来のフォーク〜カントリーなサウンドの姉妹の  
美声が活かされたフレッシュなクリスマス・アルバム。新年を祝うダンサブルな楽  
しい唄で幕。これはケブ・ブレント・トラッド色濃厚なトラッド・ロック。2002 作。  
Warner)
- \*TIM HARRISON:Tim Harrison ¥1000  
(名作 79 年作“Train Goin’ East”と 85 年作“In the Barroom Light”  
からの 10 曲を新たに録音したもの。99 作。Second Avenue Songs)

- \*KENNY BUTTERILL:Just A Songwriter B  
 (米国在住カナダ人SSW、Kennyの本作はバック&ゲスト{Willie P. Bennett, Ray Bonneville, Norton Buffalo, Joe Weed, Larry Hosford, Mary McCaslin, etc.}もばっちり固めたJ. J. Cale風似込み味SSWアルバム。2003作。No Bull Songs)
- \*RAY MATERICK:Rockin' The El Mocambo 82 a  
 (CD-R。“El Macambo Tavern”での82年の重厚ライブ。ギター、ベース、ドラムス、チェロ、サクソによるバックはトランス重戦車のパワー。Rayのヴォーカルは火の玉。スローもアップテンポも手に汗握る入魂のロック。2002作。KingKong)
- \*RAY MATERICK:Ashes And Dust a  
 (CD-R。最も音作りばっちりの僕等が知る70年代のRay風。ベース奏者がに懐かしいTim Drummond。Rayのしゃがれ声の唄とがっちり噛み合うタイトな70年代風ロック。すべてが理想のSSWアルバム。Steve SmithのスティールギターもMichael FanferraのオルガンもLisa Winn&Bob Lamotheのバックヴォーカルもいい味わいた。抜群！2001作。King Kong)
- \*SCHULD&STAMER:You Got The Bread... We Got The Jam a  
 (Stamerが全面的にヴォーカル。もうノックのJ. B. Lenoir作“Voodoo Music”からStamerの泥つとしたブルース・マジックの世界へ引きづり込まれる。ゲストのLong John Baldryもヴォーカルで4曲飛び入り。生きたブルース。絶句。98作。Blue Streak)
- \*SHANNON LYON:Tales Of A Yellow Heart A  
 (2000年作“Summer Blonde”が人気だったS. Lyonの97年作。まるでNeil Young with Crazy Horse。粗削りな70年代風ロック。97作。Swallow)
- \*KATHY PHIPPARD:Outside Lookin' In B  
 (ニューファントランドの個性派女性SSWのデビュー作。ピアノの弾き語りをもに感情の起伏の大きな唄達は魅力。極めてカナダのSSW的個性。音作りも七変化。98作。Candle View)
- \*TAMMY FASSAERT:Corner Of My Eye A  
 (ヴァンクーバー島ナナイモ出身のさわやかな女性SSWアルバム。ブルグラスとフォークがアコースティックに気持ちよくブレンド。彼女の濁りのなさは貴重。2000作。Tam Can)
- \*THE SWALLOWS:Turning Blue A  
 (Blue RodeoのGlenn MilchemがThe Swallowsという名で作ったデビューソング。70年代ブリティッシュ・フォーク〜ロック的香り漂う不思議ロック。ジャケッともサイケ調。2000作。Magnetic Angel)
- \*TONY KOSINEC:Almost Pretty A  
 (T. Kosinecの79作の4枚目。2000作。Vivid)
- \*SNEEZY WATERS:A Letter Home B  
 (テキサス・ミュージックやブルースをベースにした雑食性に富むルーツ・ロック。Sneezyらしい個性が盛り込まれている。ウェランの風格。97作。Watershed)
- \*GORDON LIGHTFOOT:A Painter Passing Through a  
 (G. Lightfootの本作は、清々しくもある種枯淡の境地。w. Daniel Lanois, Willie P. Bennett, Barry Keane, Terry Clements, etc. 98作。Reprise)



\*FRANCESCA: Au-Dela Des Couleurs

B

(フランス語、スペイン語、イタリア語、英語でつぶやくように、また情熱的に唄う地中海ムードの女性SSWアルバム。かなりの本格派だ。99作。BMG)